

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

【活動名】 組織的な教育相談体制を生かした不登校対策事業

解決すべき課題： ※どんな問題を解決しましたか？

- 自己肯定感の低い不登校児童・生徒へ自信や達成感をもたせること
- 目の前の不登校児童・生徒やその保護者の不安や悩みに寄り添うこと
- 組織的な教育相談体制を生かし、必要な関係機関や学校へつなぐこと

目的や背景： ※解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

本年度より、「いじめ・不登校など困難な状況を抱える子どもたちへの支援」や「障がいのある子どもの一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた支援」の充実を目的として、いわき市総合教育センター内に教育支援室が設置された。不登校児童生徒への対策としては、「すこやか教育相談」・「子ども健康教育相談」を中心とした（電話・来所・訪問）相談を行っている。また、市内4カ所で適応指導教室を行い、集団生活への適応を促し、学校への復帰を支援している。

一つ目の課題は、不登校関係の教育相談件数（過去5年間の状況）が毎年、増加傾向にあることから、不登校児童生徒やその保護者の不安や悩みに寄り添い、必要な関係機関や学校へつなぐことが必要と考える。

二つ目の課題は、適応指導教室「チャレンジホーム」に通う多くの児童生徒は、人との関わりに不安をもっていたり、心に傷を負っていたり、心が健康とは言えない。そのため、いつも顔がこぼれ、人と関わることに臆病になっている。この児童・生徒たちが、リラックスして何でも話せるような居心地のよい場所でありたいと考える。

活動内容： ※何をしましたか？

- 不登校児童生徒の保護を対象に行った「The 暖会」

「The 暖会」は、一昨年に開催され今年度2回目となっており、不登校児童生徒の保護者がそれぞれの悩みを打ち明けられる会となっている。今年度は、たくさんの方にこの会のことを知ってもらい、参加していただきたく、SCへ相談に来ている方・SSWが関わっている家庭・学校・適応指導教室の保護者の方へ積極的に案内した。その結果、一昨年の2倍のおよそ30名のご家族が参加して下さった。会では、以前不登校だった、現在大学生の娘さんをもつ母親から体験談を話していただいた。その後、小グループになりSC・SSW・家庭相談員を中心にそれぞれの悩みを聞く時間とした。「教育相談養成研修会」で学んだ「組織を生かした相談体制機能」を生かし、必要に応じて学校との連携・適応指導教室・SC・SSWへつなげ、少しでも保護者に寄り添えるような支援を行った。

- 適応指導教室にてSC・音楽療法士を活用しての合同行事

適応指導教室にて、今年度初めて「コラージュ療法」と「音楽療法」を心身の健康の回復・向上をはかることを目的として取り入れた。「コラージュ療法」では、「なりたい自分を明確にする」「自己理解を深める」効果がある。さらに、SCと会話をしながら制作を進めさせることで、心の状態を把握し、支援策を立案、助言につなげることができた。「音楽セラピー」では、音楽療法士の計画の下、歌唱や演奏を行う「能動的音楽療法」、音楽を聴く「受動的音楽療法」により、緊張していた児童・生徒の気持ちを和らげ、幸福感を味わわせることができた。また、音楽をきっかけに友達や教師とコミュニケーションを図ることができた。

活動の成果： ※それによって、どんな成果が得られましたか？

- 不登校児童生徒の保護を対象に行った「The 暖会」

参加者のアンケート集計から、「悩んでいるのが自分だけではでない共感できる場だった」「いろいろあったけど大丈夫だよ。と話せる日が来るように前に進んでいこうと思った」など前向きな感想をいただいた。終了時刻になっても、立ち上がりずに話し続ける姿や終了一時間が過ぎても、玄関付近で輪になり話し込んでいる姿から、保護者の不満、不安を取り除く息抜きの時間の大切さを感じた。専門的委員が集まる不登校対策会議では、「来年度もぜひ開催してほしい」と提案された。また、SC・SSW・家庭相談員が参加したことで、その後、教育相談へつなげたり、学校へ働きかけたりすることができ、とても有効であったと考え継続した支援を行っていききたい。

- 適応指導教室にてSC・音楽療法士を活用しての合同行事

「コラージュ療法」は、これまで学期に1度のペースで実施している。制作後にSCに見立ててもらい、児童生徒の内面の表出から自己肯定感やリラクゼーションにつながったのではないかと考える。「音楽療法」では、緊張気味の子どもたちが、教室を出る時には、とてもよい表情へと変わった。人と関わるきっかけづくりとして、大きな成果と感じている。この2つの療法を組み合わせることで、児童・生徒の心身の発達を援助することができ、大変有効であった。

アピールポイント（アイデア）： ※もっとも、がんばったことを、注目したことをアピールしてください。

- 組織的な教育相談体制の構築

・「チームとしての学校」をめざし、学校と家庭、地域社会、SC・SSW・心の相談員等の専門スタッフで課題を解決できるよう教育支援室が窓口となり、つなぐ役目を行ってきた。学校や家庭を訪問しての相談等にも対応し、児童・生徒の状態に応じた効果的な対応を行うことができるよう相談体制を整えてきた。教育支援室1年目で、まだまだ学校や保護者へ十分周知されているとは言えない。今後、教育支援室についてさらに啓発を図っていききたい。

- 不登校児童・生徒・保護者が一人で悩まずに関係機関に不安や悩みを伝える場の設定

・「The 暖会」のネーミングは、「お茶を飲みながらほっと一息できる場になるように」「お日様の日の光の下にいるような心ほかほかと暖かい気持ちになれるように」と願って2年前の「不登校対策会議」において命名された。その名のとおり、一人で悩んでいた不登校児童・生徒の保護者が、悩みを吐き出し明るい気持ちになる暖かい場となった。会では、学校批判だけに終わらないよう、SC・SSWとの綿密な事前打ち合わせや体験談を盛り込む等配慮した。その結果、保護者同士の情報交換ができたり、関係者と共通理解が図られたり、有意義な会となった。

- 適応指導教室の在り方を見直し、児童・生徒の居場所となるような年間計画を作成

・不登校児童・生徒の居場所として、どのような児童・生徒にも柔軟に対応していけるよう4つのホームの特徴を生かして、その子に合ったホームへ入級を勧めたり、自己肯定感の低い児童・生徒へ自信や達成感をもたせられるような年間計画を作成したりした。留意点として、ホームの中には、対人不安の児童・生徒が多数いることから、教育相談をしっかりと行った上での入級受け入れや指導員との共通理解の下、合同行事を開催していくことが大切だと実感した。

- 心身の障がい改善や生活の質の向上をめざし、コラージュや音楽のもつリラックス効果・コミュニケーションを引き出す効果の利用

・コラージュ療法や音楽療法を組み合わせる効果・SCや療法士を活用し、専門的知識を生かすことで、児童・生徒に自信を持たせることができた。

